

Part2 be動詞の現在形の攻略

今日は、全国のほとんどの中学1年生が1学期に習うことをいっしょに勉強しましょう。
まず、次の各文の____を引いた単語に注目してください。

- ① I am an English teacher.
- ② This is a pen.
- ③ Aki is my sister.
- ④ Jack and I are teachers.
- ⑤ We are students from Australia.
- ⑥ My brother is in America now.
- ⑦ I am a student of this school.
- ⑧ That man is Mr. Smith.
- ⑨ Tom and Ken are good friends.
- ⑩ They are studying math.

____を引いた単語は ^{アム}am・^{イズ}is・^{アー}are のどれかになっていますね。この3つの単語は、元はどれも同じ ^{ビー}be という単語(= be動詞と呼びます)でした。もともと同じだった単語が、どうして3つのちがったものになってしまったのでしょうか？ 実は、be動詞が、is・am・are という形に変身してしまったのですよ。

be動詞の変身

英語には、いくつかの変身語があります。変身というコトバを聞いて、あなたは何を思い出しますか。私は「仮面ライダー」や「ウルトラマン」などのヒーローたちを思い出します。少し古いですが？

本題に入りましょう。いったいヒーローたちは、どういう時に変身をするのでしょうか。ヒーローたちが変身をするのは、決まってピンチにたたされた時ですね。つまり、何らかの状況が変わる時に変身をするのです。それでは、be動詞の変身は、どのような状況の変化で起こるのでしょうか。次の各文をよく見て、まず、あなたなりに答えを出してみてください。答えを見つけやすいように、be動詞には____を引いておきます。

例文1

- ① I am Takanori Hidaka.
- ② You are Takanori Hidaka.
- ③ He is Takanori Hidaka.

例文2

- ① I am a student.
- ② You are a student.
- ③ He is a student.
- ④ She is a student.

例文 3

- ① I am a teacher.
- ② We are teachers.
- ③ They are teachers.
- ④ Mayumi and Takanori are teachers.

例文 4

- ① It is a dog.
- ② They are dogs.
- ③ This is a dog.
- ④ These are dogs.
- ⑤ That is a dog.
- ⑥ Those are dogs.

何か気づきましたか？ 何でもいいのです。大切なのは、あなた自身が考えるということです。その姿勢が、英語の力をバリバリに高めていくのです。最初はまちがってもいいのです。まちがいを正していくのが私たち教師の勤めなのですから。

さて、話を元にもどしましょう。4つの例文を見て、あなたはどんなことに気づきましたか。たとえば、例文1では、_____が引いてある単語の右側の語句はまったく同じ Takanori Hidaka です。ということは、「be動詞の変身を決めているのは、be動詞の左側の語句ではないか」という推理が成り立ちます。このような推理を立てられた人は、本当に優秀な探偵さんです。その他の探偵さんも、次のことは発見できたのではないのでしょうか。

- _____を引いた単語の左に I がある時には、be動詞が am に
- _____を引いた単語の左に You・They がある時には、be動詞が are に
- _____を引いた単語の左に He がある時には、be動詞が is にそれぞれ変身しているという発見です。

この発見は、英文が2つずつあるので、確かな証拠になります。こう考えてくると、やはりbe動詞の左側の語句が変身のカギをにぎっているみたいですね。それでは、この発見を元にして次のように整理してみましょう。

☆ be動詞が am に変身している時、be動詞の左側にある語句を書いてください。

☆ be動詞が are に変身している時、be動詞の左側にある語句を書いてください。

☆ be動詞が is に変身している時、be動詞の左側にある語句を書いてください。

さあ、ここまでくればもうわかったも同然です。これからは私の出番です。

be動詞は主語で変身する

攻略1で勉強したことを思い出してください。動詞の左側にある語句を何と言いましたか？ そう、

主語と言うのでしたね。be動詞の変身を決めているのは、実は主語と呼ばれる語句だったのです。

ところで、主語になる語句は実にさまざまです。そして、日本語でも英語でも、主語になれるコトバは、どんどん増え続けているのです。ですから、主語になれる語句はほとんど無限にあると言えます。無限に近い数の主語1つ1つに合わせて be動詞が変身していたのでは、新しい be動詞を作るのも、またその変身を覚えていくのも大変ですね。そこで、英語では主語を3つの種類に分類し、その3種類の主語に応じて be動詞の変身を決めたのです。

それでは、たくさんの主語をたった3つの種類に分ける方法をお教えしましょう。

3種類の主語

主語になる語句は、次の3つのものに分けられます。

① ^{アイ} I ② ^{ユー} You ・ ^{複数形} 複数形 ③ I でも You でも複数形でないもの
※ ^{さんになしよたんすうけい} 三人称単数形と言います

私たちがよくわからないのは、②の複数形というものです。これさえわかれば、今すぐにも、主語を3つの種類に分けることができるようになるはずですよ。

複数形については、複数形の攻略のところでも詳しく説明しますので、ここではとりあえず、次のことを覚えてください。

複数形と呼ばれる語句

① ^{ウィ} We ② ^{ゼイ} They ③ and ④ s ⑤ ^{ズイズ} These ⑥ ^{ゾウス} Those ※①～④が重要



③と④のは1つの単語を表します。④は主語が2単語以上になっている場合の複数形のパターンです。今後、主語が2単語以上になっている時には、いつも最後(1番右)の単語を見るようにしてください。最後の単語の最後(1番右)のアルファベットが s になっている場合、その2単語以上で表されている主語は複数形だと思ってください。

③の例 You and I あなたと私は

④の例 My brothers 私の兄たちは

さあ、これでもうあなたは、主語を3つの種類に分けることができるはずですよ。さっきの問題に出てきた主語を早速分けてみましょう。

① I ⇒ これは I という単語だけです。

② You ・ 複数形 ⇒ You ・ We ・ They ・ Mayumi and Takanori ・ These ・ Those



注意せよ!! you と your はまったく別のものだ。

your (あなたの・あなたたちの)は、you (あなたは・あなたたちは)という単語に r というアルファベットがくっついてできたものですが、Your ～が主語になる場合は、③の仲間になる場合もあるので注意しましょう。カギをにぎるのは Your ではなく、「～は」と訳す単語です。

(例) Your ^{ブラザ} brothers (あなたの兄たちは) → ② Your brother (あなたたちの兄は) → ③

③ 三人称単数形 (= I でも You でも複数形でもないもの) ⇒ He ・ She ・ It ・ This ・ That

次に、それぞれの主語の場合に使われている be動詞を見てください。①の場合には am、②の場合には are、そして③の場合には is が使われていますね。

ここで、主語と be動詞の関係を次のように何回かつぶやいて覚えてしまいましょう。

アイ アム、ユー アー、ウィ アー、ゼイ アー、カッコ アンド カッコ アー、カッコ カッコ
エス アー、それ以外は is

※**ズィーズ アー、ゾウズ アー** もテストなどに出ないわけではありませぬので、**余裕**があれば、つぶやいておいてください。

疑問文

疑問文というのは、何かをたずねる文です。

まず、あなたが日本語の疑問文を理解できているかの**確認**をしてみますね。次の問題を解いてみてください。

問題4 次の各文を疑問文にしてください。

- (1) あなたは英語を勉強しています。
- (2) あの女の人は女優です。
- (3) 彼らは友だちだ。
- (4) パフィーはふたごです。
- (5) サヤカは20歳です。

問題4の解答

- (1) あなたは英語を勉強していますか。
- (2) あの女の人は女優ですか。
- (3) 彼らは友だちですか。
- (4) パフィーはふたごですか。
- (5) サヤカは20歳ですか。

日本語の場合、疑問文と元の文とでは、ほとんどちがいがありません。**文末(文の最後)に「か」というひらがながある**ということが日本語の疑問文の特徴ですね。つまり、日本語では、「か」というひらがなが疑問文を作るのです。

ただし、(3)の答えのように、文の終わりを少し変化させなければならない場合もあります。この文の場合、「か」というひらがなをくっつけるだけでは、「彼らは友だちだか。」となり、日本語にはなりません。そこで、文の終わりの方を少し変えて、「彼らは友だちか。」とか、「彼らは友だちですか。」などと表します。

日本語の疑問文＝普通の文＋「か」。

次に、英語の疑問文について考えていきましょう。

英語の疑問文

次の各文をよーく見て、英語の疑問文の作り方を発見してください。発見しやすいように、主語を□で囲んでおきます。

- | 元の文 | 疑問文 |
|--------------------------|--------------------------|
| ① □ This □ is a pen. | → Is □ this □ a pen? |
| ② □ You □ are a teacher. | → Are □ you □ a teacher? |

Part3 一般動詞の現在形の攻略

Part2で、be動詞について学びましたが、ここでは、be動詞以外のすべての動詞(=一般動詞と呼びます)について勉強しましょう。

日本語の動詞

まず、日本語の動詞を思いつくままにいくつかあげてみます。

走る・食べる・飲む・書く・笑^{わら}う・歌う…。

これらのコトバに共通することは、まず、何らかの動き(動作)を表しているということです。そして、それぞれのコトバの最後のひらがなをのばすと、“うー”という音になるということです。

(例) 走るうー・飲むうー

これが、日本語の動詞の特徴です。

英語の動詞

攻略1のところで、英語の動詞は書かれる場所がキチンと決まっているということをお話ししましたが、いったいどこに書かれるのだったか、覚えてますか？ 主語のすぐ後ろ(右側)に書かれるのでしたね。これが、私たちがすでに知っている動詞の特徴の1つですが、その他にも何か考えられないでしょうか？ 私たちは、すでに、be動詞についてPart2のところで学んだのですから、…。

「そうか！ be動詞も一般動詞も同じ動詞なのだから、共通する特徴があるかもしれないなあ」

なんて考えられれば最高です。

それでは、be動詞と比べることによって、一般動詞の特徴を発見してみましょう。まず、be動詞の特徴を思い出してください。

be動詞の特徴

① 主語で変身する ② 疑問文や否定文を作る ③ 動きを表すコトバがなく、困った時に使う

以上の3つでしたね。

それでは、これらの3つの特徴が、一般動詞についても当てはまるかどうか、1つずつ検討^{けんとう}していきましょう。

まず、③の特徴についてですが、一般動詞は必ず何らかの動き(動作)を表しているのです、これは当てはまりません。

次に、①の特徴について考えてみましょう。

一般動詞は主語で変身するか？

主語には、3つの種類のものがありました。それぞれの種類の主語を使った例文を書いてみますので、一般動詞が主語で変身するのかどうか、あなたの目で見えて確かめてみてください。主語が I の場合を①、主語が You・複数形の場合を②、そして、主語が三人称単数形(= I でも You でも複数形でもないものですよ)の場合を③とします。

例文1 play^{プレイ} (する)という動詞を使って

① I play tennis.

② You play tennis.

③ He plays tennis.

例文2 ^{スイング} sing (歌う) という動詞を使って

- ① I sing well.
 ② You sing well.
 ③ He sings well.

さあ、例文1と例文2の英文から、どんなことがわかりますか。①と②の場合には、どちらの英文も動詞は変身をしていませんね。ところが、③の場合は、どちらの英文も動詞に **s** がついています。気づいていましたか？ そうです。これが、一般動詞の変身なのです。一般動詞も主語で変身をするのです。ただし、主語が I や、You・複数形の場合には変身をしません。変身をするのは、**主語が三人称単数形の場合**です。この場合だけ、**語尾(単語の終わりの部分)に s がつく**という変身をするのです。

一般動詞と be動詞の変身について表にまとめてみます。

一般動詞と be動詞の変身

主語	be動詞	一般動詞
I	am	変身しない
You・複数形	are	変身しない
三人称単数形	is	動詞に s がつく

さて、この一般動詞に **s** がつくという変身ですが、表をよく見てください。おもしろいことに気づきますよ。それは、be動詞も一般動詞も**主語が三人称単数形の場合に変身をしますが、その変身した後の動詞の最後のアルファベットは s になってしまう**ということです。be動詞と一般動詞は性格のちがった動詞ですが、意外なところで共通しているのですね。こんなちょっとした発見にも、勉強することの喜びがあります。

それでは、一般動詞の変身について少し練習をしてみましょう。

問題9 次の()内の動詞を適当な形にかえてください。(ただし、そのままのものもあります)

- (1) My sisters (speak) English very well.
 (2) She (write) some letters.
 (3) Ayaka (sing) a song.
 (4) You (like) this book.
 (5) My father (read) many books.

問題9の解答

- (1) そのまま (2) ^{ライツ}writes (3) ^{スイングス}sings (4) そのまま (5) ^{リーズ}reads

もし、一般動詞に **s** がつくかどうかよくわからない人は、be動詞の変身と同じように考えてください。つまり

「もし、()内の動詞が **be動詞だったら、isに変身する(isを使う)なあ**」

という場合に、()内の一般動詞に s をつけるようにするのです。そうすれば、必ずできるようになりますよ。

実際にやってみます。

(1)の主語は My ^{マイ} ^{スイスタズ} sisters です。主語が2単語以上で and がない場合は、最後の単語を見て主語が複数形かどうかの判断をします。つまり、sisters という単語だけで判断するのです。sisters という単語は、sister (妹)に ^{はんだん} s がくっついて複数形になった、 s のパターンです。主語が複数形の場合、be動詞だったらどんな形に変身しましたか。「are にヘンシーン」でしたね。are には s がついていないので、speak という動詞を使う場合にも s はつきません。つまり、そのままという答えになります。

それでは、もう1問。

(2)の主語は ^{シー} She です。She という単語は I でも You でも複数形でもないものなので、be動詞だったら is に変身します。is には s がついているので、write という動詞を使う場合にも s がつきます。よって、答えは **writes** になります。

これでわかってもらえましたか。大切なのは、be動詞も一般動詞も主語が三人称単数形(= I でも You でも複数形でもないもの)の場合に **s** がつく変身をするということです。

この一般動詞にsがつくという変身について、もう少し詳しく勉強してみましょう。

三単現のs

今、あなたが勉強している動詞は現在の動きを表す形ですから、現在形と呼ばれます。すべての動詞は、主語が三人称単数形で現在形の時には、s というアルファベットで終わります。

これを **三単現の s** と呼び、英語を教える先生なら誰でもよく使う文法用語の1つなので、必ず覚えておきましょう。

※普通の先生は、この三単現の s というコトバを一般動詞についてだけ使われます。is の s も三単現の s であるということは、この本だけの秘密ですよ。

s のつけ方

ルール1

普通は、動詞の語尾(終わりの部分)に s だけをつけます。

ルール2

動詞の語尾が sh・ch・o というアルファベットで終わる場合には **es** をつけます。sだけだと発音しにくいからです。

(例) wash (洗う) → **washes**

ルール3

動詞の語尾が y というアルファベットで終わる場合には、いつも y の1つ前(左側)のアルファベットを見るクセをつけてください。y の1つ前のアルファベットが a・i・u・e・o (=母音と呼ばれます)の場合は、そのまま s をつけ、それ以外のアルファベットの場合(=子音と呼ばれます)には、**y を ie にかえて s** をつけてください。

(例) study (勉強する) → **studies**

ついでに、ここで1ついいことをお教えしておきましょう。



英語では、y というアルファベットで終わる単語を変身させる時には、y は ie に、また、ie というアルファベットで終わる単語を変身させる時には、ie は y にかわります。これを1つの公式として覚えておきましょう。

y ⇔ ie

(例) lie (横たわる) という動詞に ing をつける変身が、進行形の攻略のところ出てきますが、

lie という単語は、ie というアルファベットで終わっているのですが、ie を y にかえてing をつけます。つまり、lie → ^{ライイング}lying となるのです。

一般動詞の疑問文と否定文 1

be動詞は、疑問文や否定文を作ることができましたが、一般動詞の場合は、どうでしょう。答えは、もちろん No です。P. 11に書いた疑問文と否定文の公式を思い出してください。

疑問文と否定文の公式

疑問文⇒ 主語と be動詞か助動詞の順番をヒックリ返す

否定文⇒ be動詞か助動詞のすぐ後ろに not を書く
※ただし、変身前の be には、疑問文も否定文も作れない

でしたね。つまり、一般動詞には疑問文や否定文を作ることはできないのです。

それでは、You play tennis. ^{テニス} という文を今のあなたの力で、①疑問文、②否定文に書きかえてみましょう。

①

②

×の答え その1

疑問文： Play you tennis?

否定文： You play not tennis.

「こんな答えを書いた人、手をあげてー？」と言うと、必ず数人の子が手をあげます。あなたは、どうだったでしょうか。

今、私は、一般動詞には疑問文や否定文を作ることはできない！とお話ししたばかりですね。つまり、一般動詞の play (するウー)と主語の you をヒックリ返して疑問文を作ることにはできませんし、play の後ろに not を書いて否定文を作ることにもできないのです。今の時点で、私たちが主語とヒックリ返して疑問文を作ったり、後ろにnotを書いて否定文を作ったりすることのできるコトバは、is・am・are・was・were の5種類の be動詞か助動詞と呼ばれるものだけです。

×の答え その2

疑問文： Are you play tennis?

否定文： You aren't play tennis.

これも、私がよく見てきた答えです。Play you tennis? や You play not tennis. に比べると、発想は Good です。この答えを書いた人は、たぶん

「一般動詞には、疑問文は作れない。じゃあ、be動詞を使えばいいんだ。You が主語だと、be動詞は are に変身するから…、You と are をヒックリ返して…」

などと、考えたのではないかと思われる。よく考えて問題を解きましたね。でも、あなたは、メチャメチャ大切なことを忘れていたのではないのでしょうか。P. 12でお話した **1文1動詞の大原則**です。この原則は、英語では、1つの文の中には動詞は1つしか使えないということを表しています。つまり、一般動詞と be動詞は共に動詞ですから、どんなに困っても、いっしょに使うことは許されない

Part4 複数形の攻略

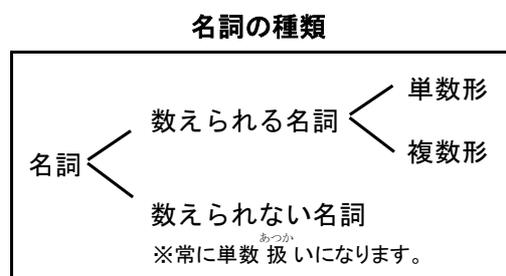
複数形については、P.6で少し触れましたが、この章でくわしく学びましょう。

名詞の種類

名詞とは、ものや生物の**名前**を表す**詞**です。この世にある(いる)すべてのものや生物には、1つ1つに名前がつけられています。それが、名詞です。よくわからない人は、この本から少し目を離して、自分のまわりをながめてみてください。机・鉛筆・時計・電気・テレビ・CDなど、いろいろなものが目に飛び込んでくるでしょ？ それらに、つけられている名前が名詞です。

ところで、この名詞というコトバは、数えられる名詞と数えられない名詞の2種類のものに分けられます。数えられる名詞が、1つ(1個・1人…)の場合を**単数**(単数形)、2つ(2個・2人…)以上の場合を**複数**(複数形)と言い、英語では、この単数形と複数形をはっきりと区別しています。つまり、**英語は数にうるさいコトバ**なのです。これは、英語の大きな特徴の1つです。もちろん、日本語にも、単数形と複数形の区別はありますが、英語ほどきびしくはありません。たとえば、女の子の複数形は、女の子**たち**・女の子**ら**などと言いますが、「本」には、単数形と複数形の区別がなく、2冊の本・3冊の本…のように何冊あっても、本は本なのです。

名詞の種類についてまとめておきます。



さあ、ここで3つ目のウラ技の登場です。

ウラ技!! その3

数えられる名詞が単数形の時には、必ず「～の」という意味を持つ単語を1つだけ名詞のすぐ前(左側)に書きなさい!

中学1年生が1学期の最初のころに習うことで、なかなかマスターできないことの1つに「^アa」の使い方があります。ほとんどの先生は、この「1つの」という意味を持つ「^アa」という単語の使い方を教えられる時、

「数えられる名詞が1つの時には、名詞の前に「^アa」か「^{アン}an」という単語を書きなさい」

と、おっしゃいます。その後で、子供たちに「これはペンです。」という日本語を英語に直す練習をやらせてみると、授業をあまり理解できていない子は、決まって、

This is pen.

と、書いてしまうものです。[これは → ^{スィス}this ・ ^{ペン}ペン → is] これらの3つの単語を英語の語順通り (=主語を書いて、その次に動詞を書くのでしたね) に並べると、確かに、This is pen. となるのです。この英文を書いた子は、基本的にはまちがっていないのです。ただ、ペンの本数が1本だということに気づかなかったのですね。もし、ペンの本数が1本だということに気づいていれば、ペンの前に「^アa」という単語を書くことを忘れなかったのではないかと思います。実は、私も英語を教え始めた何年かの間は、同じような説明をして、子供たちに「^アa」の使い方をなかなか理解してもらえませんでした。そして、

「これというのは、ペンのことだろ。ということは、ペンの数は何本？ そう、1本だね。ペンは1本・2本・3本…と数えられる名詞だから、1本の時にはどうするの？ そう、ペンの前に **a** をつけるんだったね。日本語では、ものや生物の数が1本・1つ・1人などの時には、いちい

ち1本の～・1つの～・1人の～などとは言わないことが多いので、注意するように!」

と、言い続けたのです。学校で先生に注意されて、塾でも私に注意された子供たちは、この a というコトバに、かなり神経質になります。そして、さらに私を悩ます問題へと進むのです。

問題11 「これは私のペンです。」を英語に直してください。

さあ、できましたか?私を悩ませた×の答えとあなたの書いた答えとを比べてみてください。

×の答え

① This is a my pen.

② This is my a pen.

「エーッ。これまちがってるの?」と思った人が、かなりたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。実は、a と my [my と a]は**いっしょに書いてはいけません**のです。そう教えたところで、1度「a」というコトバに神経質になった子供は、この問題を何度やっても覚えてはくれません。そこで、1つのウラ技が誕生したのです。

数えられる名詞が単数形の時には、必ず「～の」という意味を持つ単語を1つだけ名詞のすぐ前(左側)に書きなさい!

早速、このウラ技を使って、(1)これは私のペンです。(2)これはペンです。という日本語を英語に直してみましょう。

(1) [これは → this ・私の → my ・ペン → pen ・です → is]

「これは」というコトバは、「ペン」という名詞のことを指しているので「ペン」は1本(=単数形)だとわかりますが、「ペン」の前に「**私の**」というコトバがあるので、「**1本の**」という意味を持つ a という単語を使うことはできません。pen の前には my を書いて、This is my pen. となります。

(2) [これは→ this ・ペン→ pen ・です→ is]

「これは」というコトバは「ペン」という名詞のことを指しているので「ペン」は1本(=単数形)だとわかります。「ペン」の前に「**～の**」というコトバがありませんので、「**1本の**」という意味を持つ a を pen の前に書いて、This is a pen. となります。

もう少し練習してみましょう。

問題12 次の日本語を英語に直してください。

(1) ミワは歌手です。

(2) あれはりんごです。

問題12の解答

(1) [ミワは → Miwa ・歌手 → ^{シンガー}singer ・です → is]

「歌手」という名詞は、ミワのことを表している所以「歌手」は1人(=単数形)だとわかります。「歌手」の前に「**～の**」というコトバがありませんので、「**1人の**」という意味を持つ a を singer の前に書いて、Miwa is a singer. となります。

(2) [あれは→ that ・りんご→ apple ・です→ is]

「あれは」というコトバは、「りんご」という名詞のことを指しているので「りんご」は1個(=単数形)だとわかります。「りんご」の前に「~の」というコトバがありませんので、「1個の」という意味を持つ a を apple の前に書かなければならないのですが、a apple を声に出して読んでみてください。「アアプル」どうですか？ 少し読みにくいでしょう？ **a という単語の次に、apple という母音**(= a・i・u・e・o のことでしたね)で始まる単語をいきなり書いてしまうと、読みにくいのです。そこで、このように**母音で始まる単語の前に「1つの」という意味を持つ単語を書きたい時には、a に n という子音**(= a・i・u・e・o 以外のアルファベット)をつけた **an を使うことになっています**。That is **an** apple. が答えになります。

■ a・i・u・e・o で始まる単語の前では a ではなく、an を使う

複数形の表し方

名詞の複数形を表す時には、この名詞は2つ以上だゾ！という印をつけます。その印が「s」というアルファベットです。この s を語尾(単語の終わりの部分)につけるだけで、ほとんどの名詞の複数形を作ることができます。たとえば、**book** (本)という名詞は、1冊・2冊・3冊…と数えられるので、2冊以上の場合、**books** になりますし、また、**girl** (女の子)も1人・2人・3人…と数えられるので、2人以上の場合、**girls** と表されるのです。

このように、ほとんどの名詞の複数形は、単語の最後に「s」をつけるだけで表すことができるのですが、中には、少し注意しなければならないものもあります。それらについて説明しましょう。

sのつけ方

■基本的には、三単現の s をつける場合と同じです。

ルール1

普通は、語尾に s だけをつけます。

ルール2

s・x・sh・ch・(o)というアルファベットで終わる名詞には、**es** をつけます。s だけだと発音しにくいからです。

(例) bus (バス) → **buses** box (はこ) → **boxes**

ルール3

子音 + y で終わる名詞は、**y** を **ie** にかえて **s** をつけます。y ⇔ ie という公式がありましたね。(P.15参照)

(例) city (市・町) → **cities**

ルール4

名詞の語尾が **f** または **fe** で終わる場合には、**f・fe** を **ve** にかえて **s** をつけます。

(例) leaf (葉) → **leaves** knife (ナイフ) → **knives**



ここで、**f ⇔ ve** という公式を覚えてしまいましょう。これは、f というアルファベットで終わる単語を変身させる時には、f は ve に、また、ve というアルファベットで終わる単語を変身させる時には、ve は f にかわるという公式です。

f ⇔ ve

(例) 数字の変身に **th** をつけるものがあります。数字に **th** をつけると「〇番目(の)」という意味を表すコトバ(=序数と呼びます)を作れるのですが、**twelve**(12)という単語は、ve というアルファベットで終わっているため、ve を f にかえて **th** をつけます。

(例) **twelve** → **twelfth** (「12番目(の)」)

いずれにしても、名詞の複数形は、普通、s で終わります。この名詞の複数形を表す s と三単現の s は、どちらも同じ s というアルファベットなので、混同しないように注意してください。

動詞 + s → 主語が三人称単数形で現在形だということを表す s

名詞 + s → 名詞が2つ以上(=複数)だということを表す s

ところで、名詞の複数形の多くは、s をつけて表すのですが、中には、s をつけないものもあります。この s をつけない複数形は、出てくるたびに1つ1つ確実に覚えていってください。ここでは、とりあえず、次の4つのものを覚えておきましょう。

sをつけない複数形

① ^{チルドレン} children … ^{チャイルド} child (子ども)の複数形

② ^{メン} men … ^{マン} man (男の人)の複数形

③ ^{ウイメン} women … ^{ウマン} woman (女の人)の複数形

④ ^{フィート} feet … ^{フット} foot (足)の複数形

複数形の作り方は、わかっていただけましたか。

ところで、複数形の単語は、単独で使われることはほとんどありません。たとえば、girls (女の子たち)という名詞の複数形の前には、「3人の」とか、「たくさんの」などという複数を示すコトバがくっつきます。つまり、名詞を複数形に変身させる決め手となるコトバがくっつくことが多いのです。そのコトバを紹介しましょう。

名詞を複数形に変身させる7つの語句

① 数字 (^{トゥー} two ・ ^{スリー} three ・ ^{フォー} four … など)

② ^{サム} some (いくつかの)

③ ^{エニ} any (いくつかの)

④ ^{メニイ} many (たくさんの)

⑤ ^{ラット} a ^{アヴ} lot of (たくさんの)

⑥ these (これらの)

⑦ those (あれらの)

ウラ技!! その4 カメレオン some

someという単語は、疑問文や否定文で使われる時には、any という単語に変身します。そこで私は、このヘンな性格が子供たちの記憶に強く残るように、環境が変わると体の色を変えるカメレオンというハ虫類を使って、カメレオン some と名づけました。あなたもそう記憶してください。絶対に忘れなくなりますよ。